

人文・  
社会系

## メソポタミア農耕社会の 発展とともに生まれた井戸の発見

東京大学総合研究博物館 教授 **西秋良宏**



### 研究の背景

メソポタミア平原は西アジア古代文明発祥の地として知られています。私たちのグループは、文明社会への出発点となった農耕社会が、いかにして、この地に定着し発展したのかを調べるため、シリア東北部で新石器時代遺跡の調査を行っています。

巨大な古代都市の残骸や分厚い沖積土などに埋もれてしまった古い時代の遺跡を探することは容易ではありません。しかしながら、1990年代に3年間、広範な遺跡探しを行ったところ、当地最古の農耕村落の一つ、テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡が見つかりました。2000年から発掘に取り組んでいます。

### 研究の成果

過去9年間の発掘によって、遅くとも9300年前には農耕村落が出現していたこと、彼らはアナトリア山麓からやってきたらしいこと、そして定着とともに様々な社会変化が起こったことが分かりました。当地最古の土器が見つかったり、その後のメソポタミア伝統につながる最初期の「女神」土偶が見つかったりなど新発見も相次いでいます。

2008年の発掘では約9000年前の地層から深さ4mほどある井戸が見つかりました(図1)。立派な川の側にある遺跡なのに、なぜ井戸が必要だったのか。私たちは、当時、既に衛生問題が発生していたのだと考えています。農村の発展とともに人口が増え、家畜飼育や生活ゴミなどで川が汚染されつつあったのではないかと。そのため、感染症防止にも配慮した村作りが始まったのだ

と思います。そうすると、これは浄水目的の井戸としては世界最古の事例の一つに相当します。

### 今後の展望

今回見つかった井戸を材料にして過去の地下水位の変化を同定したり、土壌分析による古環境復元をしたりなど、様々な研究を進めています。また、井戸建設に伴って行われたらしい儀礼の証拠も得られていますから、その分析も進行中です。

私たちは発掘成果を現地で公開することも行っています。2008年8月にはシリア国立ダマスカス博物館で、先に述べた「女神」像の特別展示を開催しました(図2)。井戸に関わる研究も、同博物館で展示公開すべく準備を進めています。



図1  
テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡の井戸調査

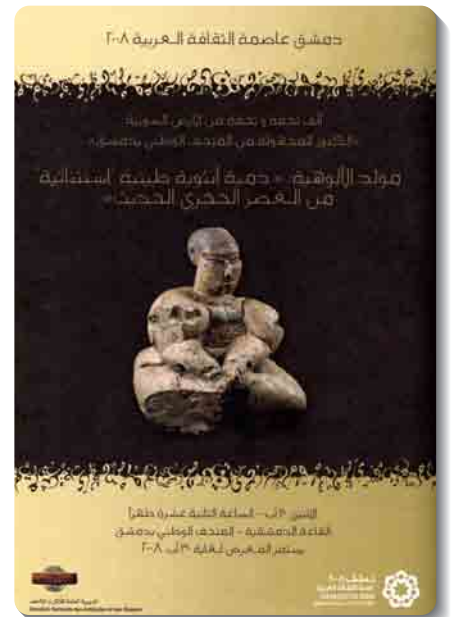


図2  
女神土偶展示図録表紙

### 関連する 科研費

平成13-15年度 基盤研究 (B) 「北メソポタミア平原における初期農耕村落の発生と展開に関する考古学的研究」  
 平成16-19年度 基盤研究 (B) 「北メソポタミア初期農耕村落文化の起源の展開」  
 平成20-21年度 基盤研究 (B) 「紀元前7千年紀におけるメソポタミア新石器社会の再編と古環境」